

牛で農地をよみがえらそう！ フォーラム2004開催される

2月3日に、長野県塩尻市の総合文化センターにおいて、「牛で農地をよみがえらそう！フォーラム2004」が、長野県主催、畜産草地研究所および長野県農業会議の共催で開催されました。平成15年度、山地畜産研究チームは、長野県と協力して県南部の木曾郡開田村と県北部の須坂市において、耕作放棄地を利用した肉用繁殖牛の放牧に関する現地実証圃場を設置し、野草地利用の際のデータを収集するとともに、研修会の実施などを通して技術の啓蒙を行ってきました。このフォーラムは、その仕事の総括として行われたもので、2ヶ所で実施してきた現地実証圃場での放牧試験の概要と結果が紹介され、県内外の具体的な耕作放棄地放牧の事例から、長野県内における今後の展開の可能性が検討されました。

はじめに落合飼料資源研究官が「耕作放棄地（水田・里山）放牧の利用と普及のために」と題して、全国の耕作放棄地放牧の紹介とその意義・効果、導入にあたっての留意事項について講演しました。続いて、滋賀県農業総合センター農業試験場湖北分場の山中成元氏からは「牛放牧による獣害対策と地域にもたらす効果」と題して、滋賀県伊香郡木之本町の獣害によって荒廃した水田に牛を放牧したことに

よる効果と、地域へもたらした影響についての話がありました。九州沖縄農業研究センターの常石英作氏からは、「牧草多給の牛肉は栄養学的に優れている」と題して、長期間放牧された繁殖雌牛の肉についてその化学成分を検討したところ、食品栄養学的にきわめて優れていることがわかったという紹介がありました。

講演に続いて、山地畜産研究チームが設置した現地実証圃場での放牧の取り組みについて、手島が紹介し、日常管理をしていただいたそれぞれの地元のJAの担当者から放牧実施時の状況や感想が述べられました。その後の総合討論では、解決すべき問題などについて活発な意見・質問があり、耕作放棄地への放牧についての興味・反響の大きさが感じられ、今後、長野県内各地への耕作放棄地放牧の取り組みの広がりが期待されました。

本フォーラムには長野県内の各分野から約150名の参加者がありました。講師をはじめ開催にあたって準備をしていただいた皆様、参加者各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

(山地畜産研究部 山地畜産研究チーム 手島茂樹)



長野県須坂市・現地実証圃場の放牧



フォーラム冒頭で挨拶する高橋山地畜産研究部長